

政治学概論 II

(13) アイデンティティと共生社会の政治

イデオロギーからアイデンティティへ

- 冷戦期 = 自由民主主義体制 VS 社会主義体制 (黄金の30年)
イデオロギー政治による競合 (国民国家) の時代
- 冷戦後 = イデオロギー統合の緩和 (グローバル・ボーダーレス)
- = 反作用としてのナショナリズムとアイデンティティ
- 民族・宗教・文化・ジェンダーへの意識 = 人権と平等
多文化共生 (と分裂) アイデンティティの主張
新たに世界的な政治課題として向き合う必要性

女性参政権の歴史

- 男性が独占支配してきた政治の世界
- 女子教育の普及 = 自由と平等、人権思想の普及 国民国家
- ⇒女性の政治参加を求める考え方 (19世紀後半ころ)
徐々に女性参政権 (第一次世界大戦が契機) ←女子労働の普及
イギリス・フランス・アメリカなど (20世紀初頭から前半)
- 第二次世界大戦後は女性参政権の確立が世界的な潮流に
日本においては敗戦直後に1946年4月総選挙から
(ただし女性参加が政治に大きな変化をもたらしたわけではない)

世界・日本のジェンダー平等と政治

- 女性解放運動 = 1960年代「先進国」から世界へ
- ⇒ 女性の自己決定権の尊重（眞の男女平等） 結婚や出産など
← 経済成長に伴う教育と生活水準の向上、女性労働の普及
※ 「福祉国家」での労働環境の向上
- 1975年、国連「国際女性年」～80年代 フェミニズム運動
- 家父長的な支配への対抗、女性の社会参加・地位向上を求める
- 日本 = 1985年 男女雇用機会均等法の制定 女性差別撤廃条約の承認、批准など。「専業主婦（子ども2人）世帯」から「共働き世帯」への移行が徐々に

マイノリティの尊重と権利保障

- ・フェミニズム運動 ⇒ 性的マイノリティ（LGBTQ）への影響
 - ・権利擁護、自己決定権の尊重 ⇒ 「カミングアウト」
 - ・21世紀にかけて「同性婚」ほか、法的な権利保障を求める運動
-
- ・女性の政治参加 「機会の平等」 ⇒ 「結果の平等」
 - ・意思決定層（権力を持つ人間）に女性が入ることが必要
 - ・「クオータ制」の推進など
 - ・※日本＝政治分野（議員や閣僚）女性比率の低さが問題に
罰則付きの数値目標で推進すべきか？

共生社会とアイデンティティ政治

- マイノリティを尊重する・多文化共生・・・実現の難しさ
 - 21世紀、アイデンティティ・ポリティクスの時代へ
 - ←これに対する反発も（伝統的価値・生活習慣との衝突）
 - 「ポリティカル・コレクトネス」の強制に対する反感
-
- 過度なアイデンティティの強調⇒合意形成の難しさ
 - 「政治的分断」⇒専制型・権威主義的な政治への志向
 - 合意できる人権を前提に「妥協と漸進」をはかる政治の必要性
(民主主義は強制してもうまく機能しない)

考えてみよう

- ・ジェンダー平等のために「クオータ制度」を導入することについて、どの分野でどのくらい進めるのが適当だと思いますか。できるだけ具体的に考えてみましょう